

インフルエンザウイルスのサブクレードKについて

厚生労働省 健康・生活衛生局 感染症対策部 感染症対策課

サブクレードとは

- インフルエンザウイルスは、「型（A型・B型）→亜型（H1N1・H3N2など）→クレード（系統群）」と分類されるが、さらにその下に「サブクレード（subclade）」という遺伝子変異により異なるグループを示す細分類がある。
- この「サブクレード（subclade）」には、J.2, J.2.4, K (J.2.4.1) 等があり、季節性インフルエンザウイルスの変異の積み重ねによるものである。

サブクレードKの発生状況

- 2025年夏以降、国内外において、インフルエンザウイルスA/H3N2 (subclade K) が確認されている。
- 当該ウイルスについては、これまでのウイルスと比較し、感染が拡大するスピードが早いものの、症状や重症度は従来の季節性インフルエンザと大きく変わらないものと想定されている。
- 国内においては、
 - ・9月以降、11月5日までに採取された国内株において、解析できたH3ウイルス23株のうち22株がサブクレードK (約96%)
 - ・入国時感染症ゲノムサーベイランス事業においては、9月以降、11月17日までに採取された検体について、212検体がH3ウイルス陽性で、うち154検体がサブクレードK (約73%)

ワクチン・治療薬の有効性

- 本年の不活化インフルエンザHAワクチンに、インフルエンザウイルスA/H3N2株は含まれている。
- 実際に、流行しているインフルエンザウイルス流行株とワクチン株に、抗原性（免疫の反応性の程度）に違いがあったとしても、一定程度の有効性が保たれるとする報告もある。
- 通常の抗インフルエンザウイルス薬が有効であると想定されている。

予防・感染対策

- 基本的な感染対策は同様であり、こまめな手洗いやマスクの着用を含む咳エチケットが重要である。また、ワクチン接種による予防も有効である。

(参考資料) Early influenza virus characterisation and vaccine effectiveness in England in autumn 2025, a period dominated by influenza A(H3N2) subclade K
https://www.eurosurveillance.org/content/10.2807/1560-7917.ES.2025.30.46.2500854#html_fulltext